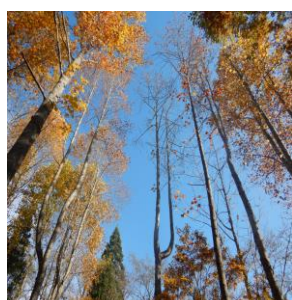


令和7年度

センターガイド



国民の森林・国有林

林野庁 東北森林管理局

森林技術・支援センター

— 森林技術・支援センターとは？ —

森林・林業に関する情報発信基地

青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県の国有林野を活用し、東北地方の地域特性に適した森林づくりの技術開発や民有林への技術支援に取り組んでいます。

沿革

平成7年 青森営林局 森林技術センター発足

平成25年 東北森林管理局 森林技術・支援センターに改称

令和3年 庁舎の老朽化に伴う建て替え工事が完了

▼ 外観



▲ 階段（CLT材） ▲ 1階ホール（CLT材、ヒバ丸太柱）

— どんな仕事をしているの？ —

森林・林業・木材産業によるグリーン成長

国有林野事業は、多様な森林とまとまりのあるフィールドを管理し、事業の実施主体という特性があります。これらを活かしつつ、民有林への周知・普及を念頭に、当センターでは3つの目標に向けて取り組んでいます。

技術開発基本目標

3つのポイント

ポイント 1



✓「新しい林業」の実現に資する取組

伐採から再生林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする取組を展開。

ポイント 2



✓ 公益的機能の高度発揮

公益的機能の高度発揮のための森林施業及び保全技術を確認する。

ポイント 3

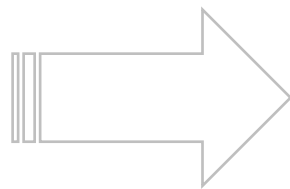


✓ 効率的な森林管理

効率的な森林管理及び健全な森林の育成技術を確認する。

これらのポイントを踏まえつつ、

3つの技術開発課題に取り組んでいます！



— 主な技術開発課題 —

当センターの試験地は、東北地方の各地に設定してあります。各地域にある出先機関、大学、研究機関等の協力を得ながら、調査を実施しています。

令和7年度
新規課題

課題2



ヒバ天然林施業の
調査データ収集と解析

技術開発期間：R7～R26

場所：津軽森林管理署金木支署

課題1



早生樹（ユリノキ）の
更新特性等と需給実態
について

技術開発期間：R5～R9

場所：青森森林管理署

三陸北部森林管理署

米代東部森林管理署

岩手大学演習林など



令和7年度
新規課題

課題3

超緩効性肥料を用いた
エリートツリー等
コンテナ苗の活用

技術開発期間：R7～R11

場所：秋田森林管理署

山形森林管理署最上支署

— 研究の成果を、地域へ —

森林・林業に関わる皆様に向けて、研究成果の発表や現地検討会等を実施しています。また、最新の取り組み状況は「センターたより」としてHPへ掲載しています。



現地検討会



発表会



講師派遣

— フィールドや資料の提供 —

大学や研究機関等の要請に応じて、試験地等のフィールドや資料を提供しています。



カラマツ挿し木植栽試験



ユリノキの視察



ヒバ天然林の調査

— こんな取り組みもしています —

増川ヒバ施業実験林の調査及び資料の保管、ヒバの天然更新力を活用しスギ等人工林からヒバ林へ復元するプロジェクトのデータ分析、また、お申し込みによる公開講座等の業務も行っています。



増川ヒバ施業実験林の調査



ヒバ林復元の取組

— 早生樹（ユリノキ）の更新特性等と需給実態について（課題1） —

平成28年から令和2年までの期間で調査が完了した早生樹（ユリノキ）試験地について、令和5年から新規課題として引き続き成長量等の追跡調査、需給実態の調査を行っています。

早生樹（ユリノキ）に関する取組

技術開発課題「早生樹を使用した施業モデルの構築（H28～R2）」において、東北地方における早生樹の諸特性を明らかにするために植栽試験を行いました。調査結果から、東北地方に適した早生樹としてユリノキの有用性が確認されたことから、当センターでは造林樹種としての実用化へ向けて追跡調査を行っています。

植栽試験



米代東部森林管理署（秋田県北秋田市）
三陸北部森林管理署（岩手県下閉伊郡田野畑村）

生育特性



追跡調査

定期調査や保育作業の検討

新規調査

継続調査

利用特性



木材としての需給実態の調査

更新特性



実生更新



萌芽更新事例の収集と
外国産樹種としての影響評価

— ヒバ天然林施業のデータ収集と解析（課題2） —

平成7年から令和6年までの期間で調査が完了したヒバ天然林試験地について、令和7年から新規課題として引き続き成長量等の追跡調査を行っていきます。

ヒバ天然林試験地に関する今後の取組

技術開発課題「ヒバ天然林施業の調査データ収集と解析（H7～R6）」において、青森県津軽半島に5箇所の試験地を設置し、ヒバ天然林における択伐や間伐実施前後での調査データを収集し、施業効果の検証を行いました。調査結果から、林分材積は択伐から14年後の平成22年にはヒバ・広葉樹ともに伐採前の水準まで蓄積が回復したと考えられますが、樹高成長も鈍化傾向にあることから、光環境を改善しヒバ稚樹の発生や中小径木の成長を促すため、ヒバの成長を阻害している広葉樹やヒバの成長不良木を中心に伐採する必要があると考えられます。

そして、今後は、施業前後での稚樹の発生やヒバの成長量等を調査していくことで、その施業効果を検証します。

— 超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の調査（課題3） —

新規課題として、令和7年から令和11年までの期間で、植栽後も効果を発揮する超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の実用化を念頭に成長量等の調査を行っていきます。

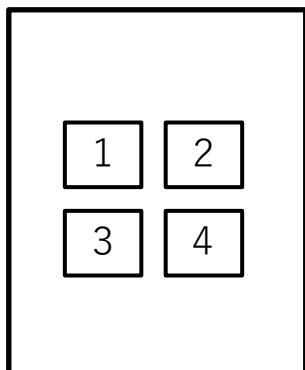
エリートツリー等コンテナ苗試験地に関する今後の取組

試験地をスギエリートツリー等コンテナ苗（超緩効性肥料あり）とスギエリートツリー等コンテナ苗（超緩効性肥料なし）の2区画に分けて植栽を行い、それぞれの区画で斜面の上・中・下部に調査プロットを設け、定期的な成長量調査を実施します。

各プロット間で成長量の比較を行うことで、超緩効性肥料の効果や土壌、微地形等の影響について検証します。

また、次年度の下刈の必要性については、C区分判定（植栽木が周りの雑草木にどの程度被圧されているかをC1～4の4段階で判別します）により下刈を実施し、下刈省力化・低コスト化の効果について検証を行います。

— 表紙の写真 —



- 1：早生樹ユリノキ7成長期（秋田県北秋田市）
- 2：早生樹ユリノキ成木（青森県青森市）
- 3：ヒバ稚樹（青森県北津軽郡中泊町）
- 4：ヒバ天然林内（青森県北津軽郡中泊町）

— お問い合わせ先 —



林野庁 東北森林管理局
森林技術・支援センター

〒037-0305 青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8

TEL：0173-57-9022

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/gizyutu/index.html>

HPはこちら

